JSABS
Japan Society of Applied Business Studies
日本ビジネス実務学会
会報 No.62 2015年4月1日発行
発行／日本ビジネス実務学会広報委員会
事務局／〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15 自由が丘産能短期大学内 TEL/FAX03-6809-7131(直通)
URL：http://www.b-jitsumu.com / e-mail:business.jitumu@gmail.com

新たなる展開をめざして

池内　健治（自由が丘産能短期大学）

この数年、世界が大きく動いています。グローバル化が進む一方で、地域紛争が激しさを増し、それが世界中を巻き込む時代なりました。イスラム国、ウクライナ情勢、ギリシアの経済危機、ボコ・ハラムによるテロや拉致、エボラ出血熱の蔓延などなど、日本もその中で大きく影響を受けています。国内では、経済基盤が揺らぐなか、凄惨な事件が相次ぐなど、不安定な時代にさしかかっているように思えます。

このような時期にあって、２つの教育の重要性が増しています。広く社会に眼を向けてその本質を考えるための教養教育と、個人が自立して社会の中で生き抜くための職業教育です。わたしも、イスラムの政治・文化・経済を理解しようと思って、井筒俊彦「イスラーム文化－その根底にあるもの」を読み返してみました。イスラム教がなぜ大きく広がったのか、そして民衆は何を求めてイスラムを受け入れているのか、考えるきっかけになりました。根底を探ることの重要性を、今改めて感じる次第です。教養の本質は、遠く離れた人の気持ちを理解し、その思い行動に換えることではないでしょうか。

一方、職業教育の必要性は、わたしたちの学会に求められています。学会の研究をもとに社会への貢献をすること、それを十分に実現できていない現状に対して奮起することです。文部科学省の委員会で専門的職業人養成のための教育機関のありかたが議論されています。この議論は高等教育機関の存在意義を問い直すものになるのではないでしょうか。日本ビジネス実務学会の実務教育研究は分厚い蓄積があります。しかしながら、蓄積に安住することから、これまでの研究の蓄積を基盤として時代の要請に対応する実践研究と教育開発へと、さらに一歩を踏み出す必要があります。変化の時代にマッチしたビジネス実務研究へと、新たな展開をめざしたいものです。

次の総会で、池内は会長としての任期を終えることになります。しかしながら、これからも皆さんと一緒に、ビジネス実務研究の新たな展開をめざして精進していくつもりです。互いの知見を高める学会として、切磋琢磨していきましょう。

Contents

会長挨拶 ―― 1
委員会活動 ―― 2
2014年度ブロック研究会活動報告
北海道、関東・東北ブロック ―― 3
中部、近畿ブロック ―― 4
中国・四国、九州・沖縄ブロック ―― 5
発表一覧 ―― 6
2014年度ブロック運営委員名簿 ―― 8
事務局からのお知らせ・新入会員・第34回全国大会 ―― 8

委　員　会　活　動

■総務・企画委員会

委員長　坪井明彦（高崎経済大学）

現在、ビジネス実務論集規程等の改訂について、会員から意見を募集しています。詳しくは学会ホームページをご覧いただき、所属ブロックのリーダーに、ご意見をお寄せください。また、倫理綱領およびプライバシー・ポリシーの新設についても、提案しています。こちらも、学会ホームページをご覧いただき、所属ブロックのリーダーにご意見をお寄せください。

これらは、2015年度６月の総会で承認を得て、制定予定です。

■編集委員会

委員長　米本倉基（藤田保健衛生大学）

2014年度は、例年通り、ビジネス実務論集第33号を発行しました。16件の申し込みに対して、投稿11件、各論文に対して査読者２名の審査と12月の編集委員会における審議を経て、理論・調査研究６編（論文１編・研究ノート５編）、教育開発研究２編の計８編が審議を通過し（修正を条件とするもの、再審査を必要とするものを含む）掲載となった。また、特集として第34回全国大会シンポジウム、テーマ「ビジネス実務教育の今後の方向性について」の内容記事を13ページにわたって掲載しました。

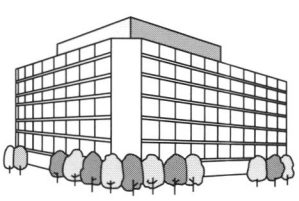
2015年度（第34号）も７月に投稿申し込みを開始し（８月上旬締め切り）、原稿の締め切りは10月になる予定です。投稿をお考えの先生方は、準備をよろしくお願いいたしますと同時に、多くの方からの投稿をお待ちしています。

■広報委員会

委員長　椿　明美（札幌国際大学短期大学部）

本年度は、会報No.61、No.62を発行しました。全国大会、および６ブロックの活動状況をご覧いただき研究の参考にしていただければ幸いです。また、ホームページの運営を、学会事務局が全国のどこへ移転しようとも使いやすいようにと検討をして参りましたが、ただ今、最終調整をしております。間もなく、より簡便な方法で内容変更ができるホームページになります。新着情報をタイムリーに掲載するなど、今後、新たなホームページの活用が見込まれます。より活発な会員への情報提供、会員間の交流の場として活用できるよう、皆様からご希望、ご意見をいただきたいと思います。

ビジネス実務論集　第34号投稿申し込み
８月上旬〆切



ブロック研究会報告

北海道ブロック

■北海道ブロック研究会報告

リーダー　武井　昭也（札幌国際大学）

(1)　ブロック研究会の動向

ブロック会員数はここ数年、入退出がありながらもほぼ30名前後で推移している。6ブロック中最小規模ではあるが、研究会活動は意欲的に取り組む会員が多い。運営は、監事を含む12名の運営委員が適材適所の役割分担でスムーズに行なっており、今年度入会者がさらに活動を活発にしてくれるものと期待している。

(2)　2014年度の活動

今年度のブロック研究会は2014年11月22日（土曜）に北海商科大学で開催した。出席者は11名。総会後に3件の研究発表があった。発表後の活発な質疑応答では研究継続のための多くの示唆があり、研究発表終了後にはフリー・ディスカッションの場を設けて意見交換を行った。会場を移しての懇親会でも情報交換を行った。

(3)　第11回学生プレゼンテーションコンテスト

ブロック研究会主催の学生プレゼンコンテストは、2014年12月21日（日曜）に北海商科大学で開催した。今回は大学生5名と留学生3名の発表があり、応援や見学の学生も多く、節目の大会にふさわしい充実した内容となった。インターンシップやボランティア活動を題材にした体験に基づく課題解決のプロセスが披露され、どの発表も熱意あふれ聴衆を惹きつけた。審査中は発表者や応援学生同士の交流の場となっている。審査結果は以下のとおりである。

■最優秀賞： 北海商科大学留学生（韓国大田大学校）鄭浄烈さん
「Globalを目指せ！北海道！」

■優 秀 賞： 北海学園大学経営学部経営学科　山田祐也さん
「日本とシンガポールで学んだ私自身の成長戦略」

■優 秀 賞「留学生の部」：
北海商科大学留学生（中国山東大学威海校）崔艶艶さん
「日本の留学で学んだこと」

(4)　2014年度「ブロック研究会活動報告書」の発行

例年どおり、「ブロック研究会活動報告書（要旨集）年度末に発行し、会員に郵送した。

関東・東北ブロック

■関東・東北ブロック研究会報告

リーダー　髙橋眞知子（常磐短期大学）

1．2014年度ブロック研究会の動向

2013年末に開始したブロックメールによる、「情報共有と伝達の促進」が進められ、活動の効率化と簡素化が定着しつつある。また、2014年6月の理事会で発表された全国の他ブロックの活動状況を参考に、ブロックの繰越金の使途を運営委員会で検討した。その結果、ブロックの繰越金を会員の研究活動とブロック運営に活用して、より活発なブロック研究会活動を促進させるために「還元」していくことを決定し、その趣旨をブロックメールで伝えた。会員数が微減している状態ではあるが、しばらくは会員が活動に参加しやすい形で進めて行くこととした。

なお、自由が丘産能短期大学にて開催されるブロック研究会は、今年度が最後となる。学会にとってもブロックにとっても大変大きな存在であった学校での最後の開催は感慨深いものがあり、感謝申し上げるばかりである。2016年2月のブロック研究会は大妻女子大学での開催が予定されている。

2．第33回全国大会

「就業力育成の実践事例研究報告」に、本ブロックから自由が丘産能短期大学の関憲治先生が「自由が丘産能短期大学における就業力育成プログラムの実践」というテーマで発表した。

3．第42回ブロック研究会

2015年2月15日（日）、自由が丘産能短期大学にて、参加会員33名、ビジター2名計35名で開催した。

(1) 総会では、飯塚会計・助成研究担当サブリーダーから、2013年度決算報告がなされ承認された。また、助成研究の継続1件が報告された。

(2) 研究会では、早稲田大学の向後千春教授による「学習効果を高めるICTの活用法～反転授業も含めた授業設計～」の基調講演が行われた。事前に会員からテーマを募り、講演をお願いした経緯もあって、当日は活発な質疑応答がなされ、参加者の関心の高さがうかがえた。

研究発表は、助成研究2件、個人研究2件、実践事例報告2件計6件であった。その後、参加者全員で、日頃関心の高いテーマに別れてバズセッションを行った。「授業設計」「ピアサポート」「接遇教育」「グローバル人材育成」「就職支援」のテーマで自由で活発な意見交換が行われ、各グループからの発表時間を持った。参加者全員の協力で充実した研究会を開催することができた。

4．2014年度ブロック会報の発行

2015年3月末を目途に、「ブロック研究会活動報告」をHPに掲載する。

中部ブロック

■中部ブロック研究会活動報告

リーダー　米本　倉基（藤田保健衛生大学）

(1)　ブロック研究会の開催

平成27年１月10日・11日の２日間、愛知東邦大学において、今年度ブロック研究会が開催され、今回も、会員等約30名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生８名、それにご招待の先生、引率の先生を加え40名以上の参加者となり大変賑わいのある研究会となった。今回も基調講演として日本体験学習研究所の林芳孝先生をお招きし「人間関係づくりトレーニングのワークショップ」を開催した。研究発表は２日間で７件行われて活発な質疑応答が交わされた。

(2)　総会

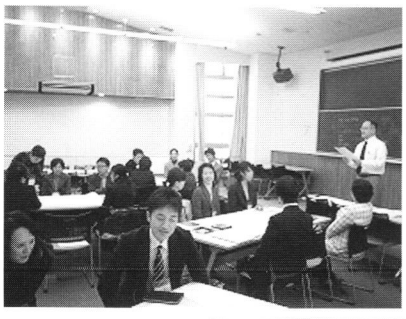
平成27年１月10日にブロック研究会の最初に総会が開催され、運営委員会実施報告、平成25年度の会計報告、次期（平成27・28年度）ブロック運営委員選出、次年度活動方針が審議され、満場一致で承認された。特に、次期ブロックリーダーに愛知東邦大学の手嶋慎介先生が選出され、北陸地区のサブリーダーに富山短期大学の加納輝尚先生、東海地区のサブリーダーに岡崎女子短期大学の河合晋先生がそれぞれ就任することとなった。

(3)　学生プレゼンテーション・コンテストの開催

ブロック研究会の初日に開催された学生プレゼン大会では、最優秀賞を佐藤愛さん（新潟県立大学２年）が受賞し、優秀賞には新庄優美子（富山短期大学１年）と橋場万由子（富山短期大学１年）の２名が、そして奨励賞には山田侑弥（愛知東邦大学２年）、川端進太郎（名古屋経営短期大学１年）、横幕沙妃穂（名古屋経営短期大学１年）、小竹真央（金城大学短期大学部１年）、村上沙季（金城大学短期大学部１年）の５名が選ばれた。

(4)　中部ブロック会報第29号の発行

３月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだブロック会報第29号を発行し会員に配布した。



近畿ブロック

■近畿ブロック研究会活動報告

リーダー　坂本　理郎（大手前大学）

１．研究会

近畿ブロックでは、第51回目となる研究会を2015年２月22日（日）に西宮市大学交流センターにおいて開催した。新体制として２期目となる今回の研究会では、一歩ずつではあるが、前回よりも改善を積み上げていく姿勢で臨んだ。

今回の研究会では、総会、助成研究中間報告、学生によるプレゼンテーション大会、研究発表、研修会という式次第であった。なお、参加者は30名（非会委員含む）であった。

(1)　総会

リーダーから前年度（2013年度）の活動報告と会計報告が行われた。さらに新年度（2015年度）の事業計画と予算案が示され、承認された。なお、今年度（2014年度）の中間報告も合わせて行った。

(2)　助成研究中間報告

前年度は応募が無かった助成研究であったが、平成26年度は規定の２件を上回る３件の申し込みがあり、いずれも当学会の趣旨に沿う意欲的なものであったため運営委員会において採択されたという経緯があった。３件ともに、学生の教育開発に関連しており、中間報告であるとはいえ、実務教育の現場に資する成果を予感させるものであった。

(3)　学生プレゼンテーション大会

今回で８回目となるが、５名の学生が発表した。今年度からの改善点として、①５分間の報告後に５分間の質疑応答を行うこと、②審査を参加者全員による評価表に基づいて行うこと、を実施した。その結果、最優秀賞（１名）、優秀賞（１名）と奨励賞（３名）を授与した。今大会は学生の成長の場であると同時に、我々の教育・研究の成果の一種であることが、あらためて確認された。

(4)　研修会

株式会社イーエス・プランニング代表取締役（兵庫県中小企業同友会代表理事）藤岡義己様をお招きし、「学生から会社員　会社員を社会人に」というテーマで、講演を行っていただいた。

学生が就職すれば「会社員」になるのは当然であるが、自律した「社会人」に育てるのは難しく、とくに中小企業では大企業よりも一層丁寧な育成が必要であることを強調されていた。とくに、「ソーシャルスキル」や職場での人間関係を重視された人材マネジメントに取り組んでおられたのが、印象的であった。

また藤岡様は、兵庫県の中小企業家が所属する団体の代表をされており、地域経済を担う次世代の経営者の育成にも取り組んでおられる。これを機に、当ブロックとして、同友会様との関係性を深めていきたいところである。

研究会終了後は、懇親会（参加者21名）を行い、研究発表内容についての意見交換や普段の教育・研究の情報交換などを盛んに行った。また、藤岡様にもご参加いただき、非常に有意義な時間となった。

２．ブロック会報

４月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだブロック会報第28号を発行し会員に配布した。

中国・四国ブロック

■中国・四国ブロック研究会活動報告

リーダー　篠原　收（広島女学院大学）

第33回全国大会では、各ブロック代表による「就業力育成の実践事例報告」があり、本ブロックからは高松大学の佃昌道会員にお願いした。

第31回ブロック研究会は、2014年８月30日（土）・31日（日）の２日間にわたり、高松短期大学において、16名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者５名を加えた21名の参加を得て開催された。招待講演「起業と再生を通じ学んだこと：めりけんやの創業とことでんの再生」（株式会社JR四国企画代表取締役社長　佐野正氏）、定例総会、学生プレゼンテーション大会、会員による研究発表５件という内容で実施された。

また、第９回学生プレゼンテーション大会は、１グループ・３個人、計５名の学生が参加した。熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表であった。PBL教育など授業成果の発表をするグループも定着したように思う。

ブロック研究会総会において、運営委員の改選があり、2015・2016年度運営委員は、佃昌道会員・粟屋仁美会員・渡辺裕一会員・立花知香会員・堀口誠信会員・水口文吾会員の運営委員就任が承認された。ブロックリーダーは佃会員、サブリーダーは粟屋会員、事務局は水口会員が担当することになった。また、2015・2016年度理事・評議員選考委員には、曽根会員が推挙された。運営委員を交替される桐木陽子会員・曽根康仁会員・宇根治会員、４年間にわたるご苦労に感謝したい。その後、粟屋会員から就任辞退の申し出があり、次期ブロックリーダーと協議し、本人の承諾を得て、金岡敬子会員の運営員（サブリーダー）就任を内定した。

次期研究会を広島地区で開催することが、ブロック研究会総会において承認された。第32回ブロック研究会は、2015年８月29日（土）・30日（日）に広島女学院大学で開催する予定である。数多くの研究発表、共同研究助成発表（募集中）を期待したい。

九州・沖縄ブロック

■九州・沖縄ブロック研究会活動報告

リーダー　大重　康雄（鹿児島女子短期大学）

平成26年度第33回全国大会（於：札幌国際大学）では、見舘好隆会員・井上奈美子会員・徳永彩子会員の各研究発表、ブロック別就業力育成の実践事例報告発表では森部昌広会員によるPBL活用法に関する発表を行った。

全国大会終了後は、本格的に次期大会準備を中心とした活動となった。10月４日（土）には、第55回ブロック研究会（於：鹿児島女子短期大学）を開催。同時に開催した運営委員会では、翌年１月発送の全国大会第１号通信に記載すべき内容についてレビューを行い、研究会後の全体会議で大会実行委員会を立ち上げた。また運営委員の改選を行い、サブリーダーが井上奈美子会員から見舘好隆会員に交替した。研究発表は４名の会員が行った。

その後、全国大会第１号通信の細かい確認作業のため、12月６日（土）には臨時運営委員会（於：博多駅前ビル）を開催し大会の流れを運営委員相互で確認した。また会場となる鹿児島地区では地元会員による実行委員会（５名）を立ち上げ、12月16日（火）および１月31日（土）の２日間、鹿児島中央駅から会場校までの道順案内・会場作り・各役割分担などの検討をおこなった。

翌年２月21日（土）には第56回ブロック研究会（於：鹿児島女子短期大学）を開催。同時に、全国大会実行委員会全体会議（15名参加）を開催した。同実行委員会では全国大会の日程レビュー・各自役割分担確認・広告依頼の状況報告・大会用昼食弁当の試食を実施した。試食では３種類の弁当についてそれぞれの感想を集約し製造元へ提案を行う資料とした。研究発表は１名欠席となり２名での研究発表であった。研究発表後、参加者全員で、全国大会で使用する学内施設を視察しそれぞれの感想を述べ合い有意義であった。

本年度は翌年に迫った全国大会準備に全員で協力しながら取り組んだ。九州・沖縄ブロックでは、これまでもPBLなど学生の主体的な学びに関する研究が多く、全国大会でも九州・沖縄ブロックらしい個性あふれた大会にしたいというのが実行委員全員の希望である。是非とも多く学会員が鹿児島の地を訪れ有意義な時間を共有できる大会になることを期待している。

ブロック研究会発表一覧
（テーマ、氏名（所属）、研究領域）

■北海道ブロック研究会

1．「非正規従業員から正規従業員への登用ー登用実施企業による事例研究ー」
神野由香里（山本隆行法律事務所）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

2．「教室内PBLの効果と課題」
椿明美（札幌国際大学短期大学部）、和田佳子（札幌大谷大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「保育者養成のキャリア教育ー共感力を高める」
武井昭也（札幌国際大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

■関東・東北ブロック研究会

■助成研究

1．「中期キャリアを見越しての就業前キャリア教育の研究」
齋藤裕美（多摩大学）、佐藤美津子（多摩大学）、長谷川美千留（八戸大学）、田中敬子（コムネット）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

2．「短期大学卒業者の組織社会化を促進させる職場での学習機会についての調査」
佐野　達（自由が丘産能短期大学）、藤原由美（同左）、関憲治（同左）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

■個人研究

3．「ピアサポートを用いた就職模擬面接の効果分析」
藤原由美（自由が丘産能短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

4．「もてなしと魅力行動学」
古閑博美（嘉悦大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

■実践事例報告

5．「現場対応力育成のための接遇教育」
西村この実（常磐短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

6．「産業能率大学における多様化する学生へのグローバル人材育成と今後の方向性―英語力強化のための短期特別講座の取り組み―」
池田るり子（産業能率大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

■中部ブロック研究会

1．「PBLによる専門演習の取組みの一試論」
加納輝尚（富山短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

2．「インタビューによるインターンシップ活動前後の意識変容について」
尾関智恵（東海学院大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「地域企業・ジョブカフェと連携した大学ゼミナールの経営・キャリア教育事例」
奥村実樹（金沢星稜大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

4．「金城ビジネス学会を通じての産学連携に与える効果 - 社会人基礎力を中心に」
若月博延、矢澤建明（金城大学短期大学部）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

5．「産学官共同事業のカリキュラム化における課題」
河合　晋、町田由徳、祝田　学（岡崎女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

6．「医療事務および会計における資格取得支援について」
黒野伸子、河合　晋（岡崎女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

7．「１・２年生合同授業の現状と課題」
川口直子、吉田智美（愛知学泉短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

■近畿ブロック研究会

1．「就職試験における数的処理能力測定の意義～適性試験等に見る就業力とは（2014・2015年度近畿ブロック研究助成中間報告）」
樋口勝一（追手門学院大学）、仁平　直（神戸国際大学付属高等学校）、福井　就（大手前大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

2．「コミュニケーション能力の客観的測定尺度のための基礎研究（2014・2015年度近畿ブロック研究助成中間報告）」
酒井健（大手前大学）、福井愛美（神戸女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

3．「合同ゼミナールと学生の成長の関連に関する研究　～ジェネリックスキル育成の観点から（2014・2015年度近畿ブロック研究助成中間報告）」
西尾久美子（京都女子大学）、小野善生（関西大学）、川端　勇樹（中京大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

4．「持続可能な社会システム構築による新しいビジネス実務の創造（第6報）―時代を切り拓くビジネス実務人材像　（第二論）」
林雄太郎（全国日本学士会）
【2】ビジネス実務調査・研究　2)時代を切り開くビジネス実務

5．「造船業の人材育成と事業システム－地域連携による技術センターの事例」
西尾久美子（京都女子大学）
【2】ビジネス実務調査・研究　3)個人とチームの実務能力の開発

6．「地場産業におけるビジネス・システム」
森元伸枝（奈良学園大学）
【2】ビジネス実務調査・研究　2)時代を切り開くビジネス実務

■中国・四国ブロック研究会

1．「英米文学は実務教育に一矢報いることができるのか」
堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラムと教材開発プログラム

2．「問題解決型学習の事例報『ビジネス実務演習における販売実習について』」
佃　昌道（高松短期大学）・関由佳利（高松短期大学）
藤井雄三（高松短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「初年次キャリア教育に関する一考察」
金岡敬子（四天王寺大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラムと教材開発プログラム

4．「『One for All宣言』の手法の実践事例について－インターネットを利用した社会貢献活動の促進に向けて－」
曽根康仁（関西学院大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　2)時代を切り拓くビジネス実務

5．「教養教育と実学教育は別物なのか？－リベラル・アーツに関する言説からの考察－」
宇根　治（広島女学院大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　2)時代を切り拓くビジネス実務

■九州・沖縄ブロック研究会

1．「韓国ビジネス法制の一考察（その4）」
北原康司（釜山女子大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

2．「TBLによる学びの発展性－彼我比較を基盤にした内省が学生を啓発する－」
大橋健治（筑紫女学院大学短期大学部）
天野緑郎（筑紫女学院大学短期大学部）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「ブレーン秘書のキャリア形成」
徳永彩子（九州共立大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

4．「インターンシップがキャリア育成にもたらす効果とその規定要因」
見舘好隆（北九州市立大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

5．「韓国ビジネス法制の一考察（その5）」
北原康司（釜山女子大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

6．「教室内能動的学修における学生のモチベーションと成長に関する研究」
所　吉彦（尚絅大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

□ 2014年度ブロック運営委員

■北海道ブロック運営委員
◎武井　昭也(札幌国際大学)
○加藤由紀子(北海商科大学)
官尾　昌子(北海道武蔵女子短期大学)
小林　　純(札幌国際大学短期大学部)
佐々木邦子(北翔大学)
沢田　　隆(北海道文教大学)
高橋　秀幸(北海道武蔵女子短期大学)
千葉　里美(札幌国際大学)
椿　　明美(札幌国際大学短期大学部)
長谷川　修(札幌国際大学)
和田　早代(札幌国際大学)
和田　佳子(札幌大谷大学)

■関東・東北ブロック運営委員
◎髙橋眞知子(常磐短期大学)
○飯塚　順一(湘北短期大学)
○齋藤　勇二(自由が丘産能短期大学)
○藤原　由美(自由が丘産能短期大学)
石井　典子(一般財団法人 キャリア教育振興協会)
岡田小夜子(大妻女子大学短期大学部)
北川　宣子(カリタス女子短期大学)
小松　由美(福島学院大学短期大学部)
齊藤　博美(多摩大学)
関　　憲治(自由が丘産能短期大学)
西村この実(常磐短期大学)
畠田　幸恵(神奈川歯科大学湘南短期大学部)
山口　憲二(新島学園短期大学)

■中部ブロック運営委員
◎米本　倉基(藤田保健衛生大学)
○國田千恵子(金沢学院短期大学)
○西川三恵子(名古屋経営短期大学)
河合　　晋(岡崎女子短期大学)
手嶋　慎介(愛知東邦大学)
斎藤　和幸(佐久大学短期大学部)
中村　則子(名古屋学芸大学短期大学部)

■近畿ブロック運営委員
◎坂本　理郎(大手前大学)
○中川　伸子(神戸女子短期大学)
福井　愛美(神戸女子短期大学)
野坂　純子(大手前短期大学)
加藤　晴美(プール学院大学短期大学部)
樋口　勝一(追手門学院大学)
足塚　智志(大手前短期大学)
西尾久美子(京都女子大学)
兒島　尚子(大阪樟蔭女子大学)
仁平　章子(四條畷学園短期大学)

■中国・四国ブロック運営委員
◎篠原　　收(広島女学院大学)
○桐木　陽子(松山東雲短期大学)
粟屋　仁美(比治山短期大学部)
曽根　康弘(関西学院大学)
渡辺　裕一(川崎医療福祉大学)
宇根　　治(広島女学院大学)

■九州・沖縄ブロック運営委員
◎大重　康雄(鹿児島女子短期大学)
○見舘　好隆(北九州市立大学)
山本　浩貴(東筑紫短期大学)
大橋　健治(筑紫女学院大学)
白川美智子(福岡女子短期大学)
有馬　恵子(鹿児島女子短期大学)
花崎　正子(九州共立大学)

◎印…ブロックリーダー
○印…サブリーダー

事務局からのお知らせ

■ビジネス実務論集No. 34について

2016年３月発行予定のビジネス実務論集No. 34の投稿募集は下記のスケジュールで予定しております。みなさまのご投稿をお待ちしております。投稿申込期限を過ぎますと受付できませんのでご注意下さい。ご質問等は、学会事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

2015年７月上旬　はがき、学会HPにて投稿募集のお知らせ
2015年８月上旬　投稿申し込み締切

■転居届提出のお願い

当学会からの発行物は郵便局ならびに宅配業者を利用しております。そのため、郵便局への転居届だけでは、宛先不明で学会事務局へ返送されてきます。

発行物をスムーズにお届けするためにも、学会事務局への転居・所属先変更のご連絡をよろしくお願いいたします。

新入会員 (2014年12月～2015年３月入会承認)

◎正会員

会員名	勤務先	ブロック	会員名	勤務先	ブロック
大泉早智子	日本薬科大学	関東・東北	水野　武	摂南大学	近畿
坂尾眞理子	東京国際大学	関東・東北	向　秀樹	神戸市役所	近畿
長尾　百合	株式会社ビーフェイス	関東・東北	森元　伸枝	奈良学園大学	近畿
前野　隆司	慶應義塾大学大学院	関東・東北	吉崎　奈々	Khon Kaen University（タイ）	近畿
山田　隆	名古屋商科大学	関東・東北	福本　章	大阪成蹊大学	中国・四国
大田　住吉	京都学園大学	近畿	石橋　慶一	福岡工業大学短期大学部	九州・沖縄
高松　直紀	大阪樟蔭女子大学	近畿			

他　学生会員１名※本人から申し出により、氏名等は掲載しません。

第34回全国大会

本年度の全国大会は九州で開催します。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

テーマ：「ビジネス実務教育の新たな展開」
日　時：2015年６月13日（土）・14日（日）
場　所：鹿児島女子短期大学